



会場風景

メインテーマに掲げた、第14回日本医療マネジメント学会茨城県支部学術集会は、2013年11月9日(土)、つくば国際会議場で開催され、587名が参加されました。

当日はお天気に恵まれ、晩秋のつくばの清々しい空気の中、午前中は7会場で63演題の一般演題発表、22演題のクリティカルパス展示、4題のランチョンセミナー、午後から東海大学病院管理学准教授・田中 豊先生による特別講演「効率的な病院運営のためのPFM」、さらに引き続きパネルディスカッション「これからの退院支援・退院調整を考える」を開催し、在宅ケア移行支援研究所宇都宮 宏子オフィス・宇都宮 宏子先生の基調講演「チームで行う退院支援～入院から在宅療養への移行支援マネジメントを体系化する～」を開催いたしました。

今回の開催にあたりご協力いただいた関係各位に厚く感謝を申し上げ、開催の報告といたします。

### 第9回愛知県支部学術集会

学術集会会長：社会保険中京病院病院長 絹川常郎



会場風景

2013年11月16日(土) ナディアパークデザインセンタービル3階デザインホールにおいて第9回日本医療マネジメント学会愛知県支部学術集会が開催されました。「都市部における地域医療を考える」をテーマとし、特別講演1題、一般演題13題、ランチョンセミナー1題の発表が行われました。

特別講演は産業医科大学医学部公衆衛生学教室教授松田晋哉先生に「これからの地域医療」と題して講演いただきました。DPCの開発手法を最近話題のNational Databaseの解析に利用し、適正な地域医療計画を策定すべきとの論調でした。話を理解しやすくするために当地区の医療の問題点についても触れられ、今後、この地区の地域包括ケアがどうあるべきかのヒントについても提示していただきました。

一般演題は、医療の質と安全、医療のIT化、地域医療連携・在宅医療、クリティカルパス、患者満足など

について10施設より12演題の発表があり、活発な質疑応答がなされました。

ランチョンセミナーは社会保険中京病院皮膚科部長小寺雅也先生に座長をお願いし、横須賀市医師会副会長三輪医院院長 千場 純先生に「これからの在宅医療：地域の多職種連携と在宅医療連携拠点活動を展望する」についてご講演いただきました。横須賀市での開業医として地域の医療者と連携しながら在宅医療を発展させて来られた経緯について、その苦勞、工夫についてのお話でした。最後は、人の死生観について哲学的な話まで踏み込まれ、聴衆も興味深く拝聴できました。

当日の参加者数は342名で会場はほぼ満席の状態でした。地域医療における「医療マネジメント」の手法の導入の必要性を感じて今回のテーマを選択したのもとして、その目的が達成されたものと考えております。会を盛り上げていただいた、関係の皆様に深謝いたします。

### 第3回群馬県支部学術集会

学術集会会長：富士重工業健康保険組合太田記念病院

病院長 佐藤吉壮

2013年11月17日(日)に太田市学習文化センターにおいて「医療マネジメントのパラダイムシフト」をメインテーマに、第3回群馬県支部学術集会を開催し、217名の参加をいただきました。このテーマに沿って特別講演は市民公開講座とし、今後重要性が増すであろう「ワクチン療法」に焦点をあて、一般市民にも公開する形をとりました(太田市/第一三共株式会社共催 上毛新聞社後援)。講師は慶應義塾大学医学部感染症学教室教授の岩田 敏先生にお願いし、ご講演をいただきました。教育セミナーでは医療安全の視点から医療メデイエーションの重要性について群馬大学医学部附属病院医療安全管理部副部長の永井弥生先生にご講演をいただきました。シンポジウムでは「チーム医療」に焦点をあて、県内で質の高いチーム医療に取り組んでおられる4名の先生方をお願いし、一般演題も9題と活発な意見交換ができました。皆様のご協力で盛会裏に学術集会を終了することができました。

### 第4回愛媛県支部学術集会

学術集会会長：愛媛大学医学部附属病院

副院長・看護部長 田淵典子

2013年11月17日(日)10:00～17:00まで愛媛大学医学部附属病院40周年記念講堂にて第4回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会を行いました。

学術集会会長講演は演題名「総合診療サポートセン